

社会

➔ 5年生 | 「わたしたちの国土」

1つの小さな島から、「日本の領土」について考えてみよう

1. はじめに

2013年1月、ある新聞で「北方領土と尖閣諸島、竹島周辺の地図上に、わが国の国境を正しく描いた大人は1割にも満たないことが、日本青年会議所が行った調査でわかった」と報じられた。この正解率が低い要因の一つは、学校教育でしっかりと教える機会が少ないことであると私は考える。小学校社会科では、主に5年生の単元「わたしたちの国土」で日本の領土について学ぶ。単に東西南北端の島の名前を教えるだけでなく、5年生には十分に理解できないところもあるかもしれないが、その背景も教えていくべきだと考え、授業プランを立ててみた。

2. 日本の国土の広がりを確認する

白地図を用意し、まずは資料を見ずに、日本の国境に線を引かせる。次に、教科書や資料集を見ながら、正しい国境を赤鉛筆で記入させる。

そして、東西南北の端の島などを全員で確認する。

北：択捉島(北海道) 南：沖ノ鳥島(東京都)
東：南鳥島(東京都) 西：与那国島(沖縄県)

なお、北方領土の問題や、竹島(島根県)は現在韓国が沿岸警備隊を常駐させて占拠している点、尖閣諸島(沖縄県)は中国や台湾も領有を主張している点にもふれるようにしたい。

また、島の位置を確認するだけでなく、各島にどのような人が住んでいるかなど、それぞれの現状についても理解させておく。

3. “領土”について、沖ノ鳥島から学ぶ

まず沖ノ鳥島について、気づいたことや思ったことをノートに書いてから発表させる。すると、島を

囲むコンクリートや鉄製の消波ブロックなどに気がついて疑問をもつはずである。

※「沖ノ鳥島映像ライブラリー」で検索すると、東京都産業労働局が作成した映像を見ることができる。

そこでさらに、沖ノ鳥島は標高が約1mで、コンクリートの保全工事を285億円かけて行ったことを伝え、なぜそんな費用や手間をかけて守っているのかを考えさせる。

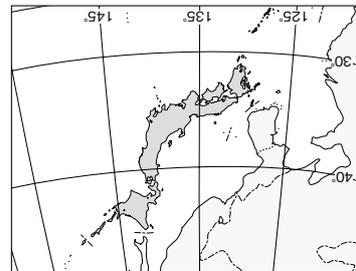
そして日本が、①島の周辺海域で自由に漁業ができる権利、②メタンハイドレートやレアメタルなど、島周辺の海底資源を採掘する権利などを得るために島を守っていることを理解させる。

※①については、「水産業のさかんな地域」で200海里水域を学ぶ際に、関連させて教えていきたい。

近年、様々な海底資源が発見されている(例えば、2012年に南鳥島周辺でレアアースが発見された)。こうした海底資源などをめぐって、島の領有権が大きな国際問題になっているケースも多い。

4. おわりに

最後に、違った視点から日本の領土を考えるのに有効な方法を紹介する。下の図のように、東アジア地域の地図を逆さから見てみる。ロシア・韓国・中国が太平洋に出ようとするときに、日本列島をどう感じるのだろうか。



※富山県民会館内の富山県刊行物センターでは、富山県土木部が作成した、通称「逆さ地図」が販売されている。